



ご利用にあたって

- 「安全情報」は医療・福祉関係の方に向けて発信したものです。一般の方に向けた内容ではございませんのでご注意ください。
- 内容は、いずれも発行日時点のものです。常に最新の情報をご確認ください。

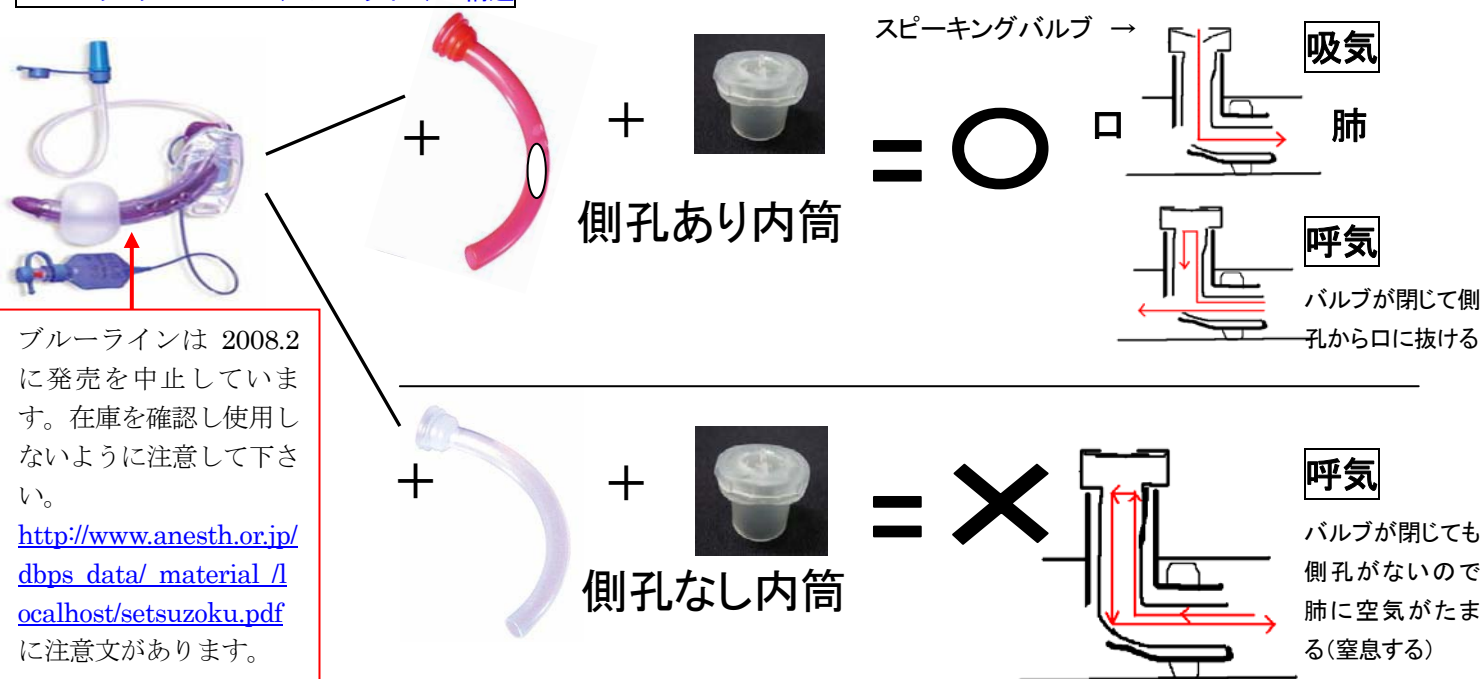


スピーキングカニューレ導入にあたっての注意

スピーキングバルブつき気管カニューレ(スピーキングカニューレ)で類似の医療事故が発生しました

二重管型の気管カニューレで 内筒には側孔あり、なしの二種類があります。スピーキングバルブは孔ありにつけて使用するのですが、孔なしに装着したため事故がおきました。いずれの内筒にも装着できる構造上の問題があります。(事故が発生した病院では職員に必ずしも構造や使用の仕方が徹底されていませんでした)

スピーキングカニューレ(ブルーライン)の構造



※スピーキングカニューレの構造を理解せずに使用すると大変危険です。各事業所で以下の点について確認して下さい。

1. あなたの病院にはどんな種類の気管カニューレ、スピーキングバルブまたはスピーキングカニューレがありますか。

(ある病院では、気管カニューレは4社12種類ありそれぞれの用途、問題などが十分理解されていませんでした。)

2. 説明書の管理、教育はどうなっていますか。

(説明書や説明書で機器の構造、問題点を理解していますか。病院にとって新しい機器を導入した場合、それに伴う教育が行われていますか。)

3. 導入、購入のルールが守られていますか。

(サンプルや初めての機器を、医務委員会などをおして主に使用していますか。)